小林正人「サブプライム金融危機の機序と『サブプライム証券化機構』」2018年

1～4

疑問点・論点

本論文の第2節においてFF金利の上昇をきっかけとしてSPL延滞率が上昇、延滞率上昇が差し押さえ率の上昇→売り家増加となって住宅価格を下落させる悪循環現象が起きたことを説明している。ではサブプライム金融危機を回避しつつ住宅バブルを沈静化するには何をすればよかったのだろうか。

A

- ・審査を厳しくすることで低所得者だけに貸し出せるようにする。
→低所得者の中でもランク分けをして返せるか審査する。

B

- ・厳しい審査によって本当にサブプライムローンが必要な低所得者だけが利用できるようにする。
→プライムローンの低金利版を作り、新たな選択肢を作る。

C

- ・サブプライムローンの審査の条件を厳しくする。証券化になんらかの制限をもうける
→ハイリスクハイリターンのもものは禁止、再証券化も禁止。

D

- ・低所得者には将来ローンを返せるかどうかの審査を厳しくし、中所得者にはローンをくませないように規制をかける。
→低所得者へのローンの負担を軽くするために補助金を出す。

以上